# 安全データシート

## *スピノエース™顆粒水和剤*

| 版番号 | 改訂日: | 整理番号: | 前回改訂日: 2024/07/05 |
|---|---|---|---|
| 0.0 | 2026/01/08 | 800080004931 | 初回作成日: 2024/07/05 |

Corteva Agriscience™ は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)ＳＤＳを熟読され、ご理解されるようお願いしております。この SDS は、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。この SDS は、日本の法規制及び JIS Z 7253 に準拠して作成されたものであり、日本以外の国の規制を満たすものではありません。

---

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：　スピノエース™顆粒水和剤

**供給者の会社名称、住所及び電話番号**

**会社情報**
**製造業者/輸入業者**
コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社
100-6110 東京都千代田区永田町 2-11-1

**会社電話番号**　：　03-3519-3410
**電子メールアドレス**　：　SDS@corteva.com

緊急連絡電話番号　：　0800-170-5827

**推奨用途及び使用上の制限**

推奨用途　：　殺虫剤

### 2. 危険有害性の要約

**化学品の GHS 分類**

| | | |
|---|---|---|
| 発がん性 | ： | 区分 1A |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） (吸入) | ： | 区分 1 (肺) |
| 水生環境有害性 短期（急性） | ： | 区分 2 |
| 水生環境有害性 長期（慢性） | ： | 区分 2 |

**GHS ラベル要素**

™ ®コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標

絵表示又はシンボル　：



注意喚起語　：　危険

危険有害性情報　：
H350 発がんのおそれ。
H372 長期にわたる、又は反復ばく露（吸入）による臓器（肺）の障害。
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き　：

**安全対策:**

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じんを吸入しないこと。
P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

**応急措置:**

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
P391 漏出物を回収すること。

**保管:**

P405 施錠して保管すること。

**廃棄:**

P501 内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

**GHS 分類に該当しない他の危険有害性**

知見なし。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：　混合物

**成分**

| 化学名 | CAS 番号 | 含有量 (% w/w) | 化審法 (ENCS)/安衛法 (ISHL) 番号 |
|---|---|---|---|
| スピノサド | 168316-95-8 | 25 | 8-(4)-1959 |
| 石英 | 14808-60-7 | 46 | 1-548 |
| ドデシル硫酸ナトリウム | 151-21-3 | 2.5 | 2-1679 |

## 4. 応急措置

| | | |
|---|---|---|
| 吸入した場合 | : | 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。 |
| 皮膚に付着した場合 | : | 汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で 15～20 分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。<br>作業場内に適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。 |
| 眼に入った場合 | : | 眼を開いたまま 15～20 分水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5 分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。<br>作業場内に適切な緊急用洗眼設備を設置すること。 |
| 飲み込んだ場合 | : | 緊急医療措置は必要ない。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 | : | 知見なし。 |
| 応急措置をする者の保護 | : | 応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。<br>ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | : | 喘息の様な(反応性気道)症状を起こすことがある。気管支拡張薬、去痰薬、鎮咳薬およびコルチコステロイドが有効なことがある。<br>特別な解毒剤はない。<br>ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。<br>中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。<br>皮膚接触により既存の皮膚炎が悪化することがある。 |

## 5. 火災時の措置

| | | |
|---|---|---|
| 適切な消火剤 | : | 水噴霧<br>耐アルコール泡消火剤<br>二酸化炭素 (CO2)<br>粉末消火剤 |
| 使ってはならない消火剤 | : | 知見なし。 |
| 特有の危険有害性 | : | 燃焼生成物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。<br>泡を使用するとかなりの量の水素ガスが放出されるが、泡で覆い閉じ込めることができる。 |

| | | |
|---|---|---|
| 有害燃焼副産物 | : | 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。<br>燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない：<br>窒素酸化物(NOx)<br>炭素酸化物 |
| 特有の消火方法 | : | 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。<br>消火剤を容器の内容物に接触させない。　ほとんどの消火剤は水素の発生を引き起こし、消火すると、換気の悪い場所や密閉された場所に蓄積し、発火した場合、フラッシュ火災や爆発を引き起こす可能性がある。<br>安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。<br>区域から退避させること。<br>未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。<br>汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。<br>火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。 |
| 消火を行う者の保護 | : | 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。<br>保護具を使用する。 |

## 6. 漏出時の措置

| | | |
|---|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | : | 粉じんの発生を避ける。<br>適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。 |
| 環境に対する注意事項 | : | 環境への放出は必ず避けなければならない。<br>安全を確認してから、もれやこぼれを止める。<br>汚染された洗浄水を保管し、処分する。<br>流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | : | 本物質、ならびに放出物の清掃に使用した資材および品目の放出および処分については、地方または国の規制が適用される場合がある。<br>粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。<br>回収物質は、ベント付き容器に保管すること。漏洩物質 が更に反応し、容器内が加圧状態になることがあるので、通気孔から水が侵入しないようにすること。<br>掃いてシャベルですくいとる。<br>廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。<br>酸で中和する。<br>こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。<br>追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

安全取扱注意事項 : 十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。
作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。
漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。
適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

接触回避 : 強酸
強塩基類

### 保管

安全な保管条件 : 密閉容器に保管すること。
適切なラベルのついた容器に入れておく。
各国の規定に従って保管する。

混触禁止物質 : 強酸化剤

安全な容器包装材料 : 適さない材質: 知見なし。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

| 成分 | CAS 番号 | 指標 (暴露形態) | 管理濃度 / 濃度基準値 / 許容濃度 | 出典 |
|---|---|---|---|---|
| 石英 | 14808-60-7 | OEL-C (吸入性粉塵) | 0.03 mg/m3 (シリカ) | 日本産業衛生学会（許容濃度） |
| | 詳細情報: 発がん物質、「第 1 群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は，疫学研究からの十分な証拠がある。 | | | |
| | | TWA (呼吸濃度) | 0.025 mg/m3 (シリカ) | ACGIH |
| スピノサド | 168316-95-8 | TWA | 0.3 mg/m3 | Corteva OEL |
| | | STEL | 0.9 mg/m3 | Corteva OEL |
| ドデシル硫酸ナトリウム | 151-21-3 | TWA | 1 mg/m3 | Corteva OEL |
| | | STEL | 3 mg/m3 | Corteva OEL |

**設備対策** : 空気中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。
許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。
一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

### 保護具

呼吸用保護具 : 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。
許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。

特定の作業や物質の空気中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。
緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。

手の保護具

備考 : この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例：ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。
注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具 : ケミカルゴーグルを使用する。

皮膚及び身体の保護具 : この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 細粒

色 : 淡褐色

臭い : 無臭

臭いのしきい(閾)値 : データなし

融点/ 範囲 : データなし

凝固点 データなし

沸点／沸騰範囲 : 固体には該当しない

可燃性（固体、気体） : データなし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

爆発範囲の上限 / 可燃上限値 : データなし

爆発範囲の下限 / 可燃下限値 : データなし

引火点 : 適用なし

自己発火性 : データなし

pH : 10.0

蒸発速度 : データなし

| | | |
|---|---|---|
| かさ密度 | : | 0.75 g/mL |
| 自然発火点 | : | データなし |
| 粘度 | | |
| 粘度(粘性率) | : | データなし |
| 動粘度（動粘性率） | : | データなし |
| 溶解度 | | |
| 水溶性 | : | データなし |
| 蒸気圧 | : | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | | |
| 密度 | : | データなし |
| 相対ガス密度 | : | データなし |
| 爆発特性 | : | データなし |
| 酸化特性 | : | データなし |
| 粒子特性 | | |
| 粒子サイズ | : | データなし |

## 10. 安定性及び反応性

| | | |
|---|---|---|
| 反応性 | : | 反応性危険としては分類されない。 |
| 化学的安定性 | : | 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。<br>通常の状態では安定。 |
| 危険有害反応可能性 | : | 推奨保管条件下では安定。<br>特に言及すべき危害要因はない。 |
| 避けるべき条件 | : | 知見なし。 |
| 混触危険物質 | : | 強酸<br>強塩基類 |
| 危険有害な分解生成物 | : | 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。<br>分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない：<br>窒素酸化物(NOx)<br>炭素酸化物 |

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

**製品:**

| | | |
|---|---|---|
| 急性毒性（経口） | : | LD50 (ラット、オスおよびメス): > 5,000 mg/kg |
| 急性毒性（経皮） | : | LD50 (ラット、オスおよびメス): > 2,000 mg/kg<br>症状: この濃度では死に至らない。<br>アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。 |

**成分:**

**スピノサド:**

| | | |
|---|---|---|
| 急性毒性（経口） | : | LD50 (ラット、オス): 3,738 mg/kg<br>アセスメント: この物質または混合物は急性の経口毒性は無い。<br><br>LD50 (ラット、メス): > 5,000 mg/kg |
| 急性毒性（吸入） | : | LC50 (ラット): > 5.18 mg/l<br>曝露時間: 4 h<br>試験環境: 粉じん/ミスト<br>アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。 |
| 急性毒性（経皮） | : | LD50 (ウサギ): > 5,000 mg/kg |

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

| | | |
|---|---|---|
| 急性毒性（経口） | : | LD50 (ラット): 1,200 mg/kg |
| 急性毒性（経皮） | : | LD50 (ウサギ): > 10,000 mg/kg |

### 皮膚腐食性／刺激性

**成分:**

**スピノサド:**

| | | |
|---|---|---|
| 種 | : | ウサギ |
| 結果 | : | 皮膚刺激なし |

**石英:**

| | | |
|---|---|---|
| 結果 | : | 皮膚刺激なし |

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

結果 : 皮膚刺激性

**眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性**

**製品:**

結果 : 眼への刺激なし

**成分:**

**スピノサド:**

種 : ウサギ
結果 : 眼への刺激なし

**石英:**

結果 : 眼への刺激なし

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

結果 : 腐食性

**呼吸器感作性又は皮膚感作性**

**成分:**

**スピノサド:**

試験タイプ : マキシマイゼーション法
種 : モルモット
結果 : 皮膚感作性なし

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

種 : モルモット
結果 : 皮膚感作性なし
備考 : 類似物質について

**生殖細胞変異原性**

**成分:**

**スピノサド:**

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

**石英:**

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vitro 遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

**発がん性**

**成分:**

**スピノサド:**

発がん性 - アセスメント : 動物試験では発がん性はなかった。

**石英:**

発がん性 - アセスメント : ヒトで発がん性を示した。実験動物で発がん性が認められた。人間の発癌性物質。

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

発がん性 - アセスメント : 動物試験では発がん性はなかった。

**生殖毒性**

**成分:**

**スピノサド:**

生殖毒性 - アセスメント : 動物試験では、親動物に対して重大な毒性を示した用量においてのみ、生殖に対する有害影響が認められた。
母体に毒性影響を起こした摂取量でも、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

**石英:**

生殖毒性 - アセスメント : 類似物質について、動物試験で催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

生殖毒性 - アセスメント : 実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。動物試験で催奇形性はなかった。

**特定標的臓器毒性（単回ばく露）**

**製品:**

アセスメント : 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

**成分:**

**スピノサド:**

| | | |
|---|---|---|
| アセスメント | : | 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。 |

**石英:**

| | | |
|---|---|---|
| アセスメント | : | 使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。 |

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

| | | |
|---|---|---|
| 暴露の主経路 | : | 吸入 |
| 標的臓器 | : | 気道 |
| アセスメント | : | 呼吸器への刺激のおそれ。 |

**特定標的臓器毒性（反復ばく露）**

**成分:**

**石英:**

| | | |
|---|---|---|
| 暴露の主経路 | : | 吸入 |
| 標的臓器 | : | 肺 |
| アセスメント | : | 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。 |

**反復投与毒性**

**成分:**

**スピノサド:**

| | | |
|---|---|---|
| 備考 | : | 動物では、スピノサドにより、多様な組織で細胞の空胞化が生じることを示した。<br>これらの影響が生じる摂取量は、使用中の暴露による想定される摂取量の何倍も高い摂取量である。 |

**石英:**

| | | |
|---|---|---|
| 備考 | : | ヒトでは、以下の臓器に影響することが報告されている：<br>腎臓。<br>結晶シリカに反復過剰暴露すると珪肺症や、肺の病気を進行させたり肺が機能しなくなる疾患を起こすことがある。 |

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

| | | |
|---|---|---|
| 備考 | : | 腹部不快感または下痢をおこすことがある。 |

**誤えん有害性**

**製品:**

物性上、誤えん有害性は低い。

**成分:**

**スピノサド:**

入手可能な情報によると、誤えん有害性は確定されていない。

**石英:**

物性上、誤えん有害性は低い。

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

物性上、誤えん有害性は低い。

## 12. 環境影響情報

**生態毒性**

**製品:**

| | | |
|---|---|---|
| 魚毒性 | : | LC50 (Lepomis macrochirus（ブルーギル）): 5.9 mg/l<br>曝露時間: 96 h<br>備考: 有効成分について<br><br>LC50 (Cyprinus carpio（コイ）): 410 mg/l<br>曝露時間: 96 h<br>試験タイプ: 止水式<br>備考: 製品として |
| ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 | : | 備考: 物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種ではLC50/EC50: 1～10 mg/L)。<br><br>EC50 (Daphnia magna（オオミジンコ）): 7.7 mg/l<br>曝露時間: 48 h<br>試験タイプ: 固定化<br>備考: 製品として<br><br>EC50 (イースタンオイスター(Crassostrea virginica)): 0.295 mg/l<br>備考: 有効成分について<br><br>EC50 (Daphnia magna（オオミジンコ）): 1.5 mg/l<br>曝露時間: 48 h<br>方法: OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの |

備考: 有効成分について

藻類／水生生物に対する毒性 : EbC50 (珪藻（Navicula 属）): 0.107 mg/l
エンドポイント: バイオマス
曝露時間: 5 d
備考: 有効成分について

EbC50 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)): 39 mg/l
曝露時間: 7 d
備考: 有効成分について

EC50 (イボウキクサ(Lemna gibba)): 10.6 mg/l
曝露時間: 14 d
備考: 有効成分について

備考: 成分の情報による
物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50: 0.1～1 mg/L)。

ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)): 124 mg/l
曝露時間: 72 h
試験タイプ: 成長抑制
備考: 製品として

最大無影響濃度 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)): 0.994 mg/l
曝露時間: 72 h
試験タイプ: 成長抑制
備考: 製品として

**成分:**

**スピノサド:**

魚毒性 : LC50 (Lepomis macrochirus（ブルーギル）): 5.94 mg/l
曝露時間: 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 : EC50 (Daphnia magna（オオミジンコ)): 1.478 mg/l
曝露時間: 48 h
方法: OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

EC50 (Chironomus riparius（ユスリカ )): 0.014 mg/l
曝露時間: 48 h

藻類／水生生物に対する毒性 : ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)): > 100 mg/l
曝露時間: 7 d

EC50 (イボウキクサ(Lemna gibba)): > 74.0 mg/l
曝露時間: 7 d

ErC50 (Navicula pelliculosa (淡水珪藻)): 0.107 mg/l
曝露時間: 120 h

M-ファクター (水生環境有害性 短期（急性）) : 10

魚毒性 (慢性毒性) : 最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.498 mg/l
曝露時間: 32 d

最大無影響濃度 (Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ)): 0.217 mg/l
曝露時間: 203 d

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性) : 最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.0012 mg/l
曝露時間: 21 d

M-ファクター (水生環境有害性 長期（慢性）) : 10

微生物に対する毒性 : (バクテリア): > 100 mg/l

土中生物に対する毒性 : LC50 (Eisenia fetida (ミミズ)): > 970 mg/kg
曝露時間: 14 d

地上生物に対する毒性 : 混餌 LC50 (Anas platyrhynchos (マガモ)): > 5,156 mg/kg 餌
曝露時間: 5 d

経口 LD50 (Colinus virginianus (コリンウズラ)): > 2,000 mg/kg 体重

混餌 LC50 (Colinus virginianus (コリンウズラ)): > 5,253 mg/kg 餌
曝露時間: 5 d

経口 LD50 (Apis mellifera (ミツバチ)): 0.06 µg/bee
曝露時間: 48 h

接触 LD50 (Apis mellifera (ミツバチ)): 0.05 µg/bee
曝露時間: 48 h

**石英:**

魚毒性 : 備考: 類似物質の情報による
物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50: > 100 mg/L)。

LC50 (Danio rerio（ゼブラフィッシュ)): 508 mg/l
曝露時間: 96 h
備考: 類似物質の情報による

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 : EC50 (Daphnia magna（オオミジンコ)): 731 mg/l
曝露時間: 48 h
備考: 類似物質について

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

魚毒性 : LC50 (Oncorhynchus mykiss（ニジマス)): 4.6 mg/l
曝露時間: 96 h
方法: 方法不特定

LC50 (Pimephales promelas（ファットヘッドミノウ)): 29 mg/l
曝露時間: 96 h
方法: OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 : EC50 (Daphnia magna（オオミジンコ)): 6.2～49.4 mg/l
曝露時間: 48 h
方法: 方法不特定

LC50 (塩水アミ (Mysidopsis bahia)): 6.1～18.3 mg/l
曝露時間: 96 h

藻類／水生生物に対する毒性 : EC50 (Pseudokirchneriella subcapitata（緑藻)): 117 mg/l
エンドポイント: バイオマス
曝露時間: 96 h

微生物に対する毒性 : EC50 (活性汚泥): 130～170 mg/l
曝露時間: 30 min
方法: OECD 209 試験

**残留性・分解性**

**成分:**

**スピノサド:**

生分解性 : 結果: 分解性なし
生分解: < 1 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの
備考: 10-day Window:不合格

生化学的酸素要求量 (BOD) : 66.000 %
インキュベーション時間: 5 d
方法: ダウテキスト

68.000 %
インキュベーション時間: 10 d
方法: ダウテキスト

76.000 %
インキュベーション時間: 20 d
方法: ダウテキスト

77.000 %
インキュベーション時間: 28 d
方法: ダウテキスト

水中での安定性 : 試験タイプ: 加水分解
分解半減期 (半減期): 200～259 d (25 ° C) 、pH: 9

試験タイプ: 光分解
分解半減期 (半減期): 0.84～0.96 d、pH: 7

**石英:**

生分解性 : 備考: 生分解は適用不可

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

生分解性 : 備考: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。

好気性
含有量: 100 mg/l
結果: 易分解性
生分解: 85 %
曝露時間: 14 d
方法: OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの
備考: 10-day Window:非該当

結果: 易分解性
生分解: 95 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの
備考: 10-day Window:合格

生化学的酸素要求量 (BOD) : 57～97 %
インキュベーション時間: 5 d

化学的酸素要求量 (COD) : 0.68 mg/g

ThOD : 2.00 kg/kg

**生体蓄積性**

**成分:**

**スピノサド:**

| | | |
|---|---|---|
| 生体蓄積性 | : | 種: 魚類<br>生物濃縮因子（BCF）: 33<br>曝露時間: 28 d<br>方法: 測定値 |

**石英:**

| | | |
|---|---|---|
| n-オクタノール／水分配係数（log 値） | : | 備考: n - オクタノール・水分配係数は適用不可 |

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

| | | |
|---|---|---|
| 生体蓄積性 | : | 生物濃縮因子（BCF）: 70<br>方法: 推定値 |
| n-オクタノール／水分配係数（log 値） | : | 備考: 生物濃縮の可能性は低い（BCF: < 100 または Log Pow: < 3）。<br><br>log Pow: 1.60<br>方法: 測定値 |

**土壌中の移動性**

**成分:**

**スピノサド:**

| | | |
|---|---|---|
| 環境中の分布 | : | Koc: 701<br>方法: 測定値<br>備考: 土壌中移動性が小さい(Koc: 500～2,000)。 |
| 土中での安定性 | : | 消失時間: 8.68 - 9.44 d<br>方法: 光分解 |

**石英:**

| | | |
|---|---|---|
| 環境中の分布 | : | 備考: 関連のあるデータは得られていない。 |

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

| | | |
|---|---|---|
| 環境中の分布 | : | 備考: 土壌中移動性は比較的小さいと考えられる。(Koc: > 5,000)<br>ヘンリー定数が極めて低いので、自然水系や湿った土壌からの蒸発は多くないと考えられる。<br><br>Koc: > 5,000<br>方法: 推定値 |

**オゾン層への有害性**

**成分:**

**スピノサド:**

オゾン層破壊係数 : 備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**石英:**

オゾン層破壊係数 : 備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**ドデシル硫酸ナトリウム:**

オゾン層破壊係数 : 備考: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

**他の有害影響**

データなし

## 13. 廃棄上の注意

**廃棄方法**

残余廃棄物 : 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
以下の情報は購入時の状態のときのみに適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。
内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

## 14. 輸送上の注意

**国際規制**

**陸上輸送(UNRTDG)**

| | | |
|---|---|---|
| 国連番号 (UN number) | : | UN 3077 |
| 国連輸送名 (Proper shipping name) | : | ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S. (Spinosad) |
| 国連分類 (Class) | : | 9 |
| 容器等級 (Packing group) | : | III |
| ラベル (Labels) | : | 9 |

| | | |
|---|---|---|
| 環境有害性 | : | 該当 |

**航空輸送(IATA-DGR)**

| | | |
|---|---|---|
| UN/ID 番号 (UN/ID number) | : | UN 3077 |
| 国連輸送名 (Proper shipping name) | : | Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s. (Spinosad) |
| 国連分類 (Class) | : | 9 |
| 容器等級 (Packing group) | : | III |
| ラベル (Labels) | : | Miscellaneous |
| 梱包指示（貨物機） (Packing instruction (cargo aircraft)) | : | 956 |
| 梱包指示（旅客機） (Packing instruction (passenger aircraft)) | : | 956 |

**海上輸送(IMDG-Code)**

| | | |
|---|---|---|
| 国連番号 (UN number) | : | UN 3077 |
| 国連輸送名 (Proper shipping name) | : | ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S. (Spinosad) |
| 国連分類 (Class) | : | 9 |
| 容器等級 (Packing group) | : | III |
| ラベル (Labels) | : | 9 |
| EmS コード (EmS Code) | : | F-A, S-F |
| 海洋汚染物質(該当・非該当) (Marine pollutant) | : | 該当(Spinosad) |
| 備考 | : | Stowage category A |

**MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）**

供給された状態の製品には非該当。

**国内規制**

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

**特別の安全対策**

| | | |
|---|---|---|
| 備考 | : | 国連番号 3077 及び 3082 に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が 5L 以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が 5kg 以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDG コードセクション 2.10.2.7、IATA 特別規定 A197 および ADR/RID 特別規定 375 に規定されるように、非危険物として輸送することができる。 |

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

| | | |
|---|---|---|
| **緊急時応急措置指針番号** | : | 171 |

## 15. 適用法令

**関連法規**

**労働安全衛生法**

**名称等を通知すべき危険物及び有害物**

法第５７条の２（則 34 条の 2 別表２）

| 化学名 | 含有量 (%) | 備考 |
|---|---|---|
| 結晶質シリカ | >=40 - <50 | - |
| スピノサド（スピノシンＡとスピノシンＤの混合物） | >=20 - <30 | - |
| ドデシル硫酸ナトリウム | >=1 - <10 | - |

**名称等を表示すべき危険物及び有害物**

法第５７条（則 30 条別表２）

| 化学名 | 備考 |
|---|---|
| 結晶質シリカ | - |
| スピノサド（スピノシンＡとスピノシンＤの混合物） | - |
| ドデシル硫酸ナトリウム | - |

**皮膚等障害化学物質（労働安全衛生規則第 594 条の２）**

| 化学名 |
|---|
| ドデシル硫酸ナトリウム |

**がん原性物質（労働安全衛生規則第 577 条の２）**

| 化学名 |
|---|
| 結晶質シリカ（石英） |

**毒物及び劇物取締法**

非該当

**化学物質排出把握管理促進法**

**第一種指定化学物質**

| 化学名 | 管理番号 | 含有量 (%) |
|---|---|---|
| スピノサド（スピノシンＡとスピノシンＤの混合物） | 672 | 25 |
| ドデシル硫酸ナトリウム | 275 | 2.5 |

**農薬取締法**

## 16. その他の情報

中毒に関する緊急の問合せ先：
公益財団法人 日本中毒情報センター（事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る）
中毒１１０ 番　　365 日 24 時間対応
一般市民専用電話 （情報料無料）　　（大 阪）072-727-2499
（つくば）029-852-9999
医療機関専用有料電話 （1 件 2,000 円）　　（大 阪）072-726-9923

（つくば）029-851-9999
医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料 1 件につき 2,000 円を徴収します。

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます

| | | |
|---|---|---|
| 日付フォーマット | : | 年/月/日 |

**その他の略語の全文**

| | | |
|---|---|---|
| ACGIH | : | 米国。 ACGIH 限界閾値（TLV） |
| Corteva OEL | : | Corteva Occupational Exposure Limit |
| 日本産業衛生学会（許容濃度） | : | 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I.化学物質の許容濃度 |
| ACGIH / TWA | : | 8 時間、時間加重平均 |
| Corteva OEL / STEL | : | 短時間暴露限界値(STEL)： |
| Corteva OEL / TWA | : | 8-hr TWA |
| 日本産業衛生学会（許容濃度） / OEL-C | : | 最大許容濃度 |

ADR - 陸路による 危険物品の国際輸送に関する協定; ASTM - 米国材料試験協会; ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと 考えられる濃度; EmS - 緊急時のスケジュール; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実 施規範; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学 品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害 濃度; IMDG - 国際 海上危険物規程; IMO - 国際海事機関.LC50 - 50％致死濃度.LD50 -50％致死量（半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n.o.s. - 他に品名が明示されているものを除く; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; (Q)SAR -（定量的） 構造活性相関; RID - 欧州危険物国際鉄道輸送規則; SDS - 安全データシート; UN - 国連. ENCS - 化審 法の既存化学物質リスト ISHL - 労働安全衛生法

製品コード: T6P-20-1 (GF-1761)

この安全データシート（以下「SDS」といいます。）に記載されている情報は、データシートの作成日現在において当社が保有している知見に基づき作成されたものです。SDS は対象製品の安全な取扱い、使用、加工、保管、輸送、漏洩時および廃棄に関する指針（ガイダンス）としてのご使用のみを意図して発行されるものであり、対象製品について明示、黙示を問わず何らかの保証を行うものでも、また品質規格を定めるものでもありません。また、SDS に記載された情報は、指定された特定の製品の単独利用の場合におけるものであり、SDS に明示的に記載された場合を除き、指定外の物質との併用や指定外の工程での利用において、対象製品が SDS に記載された情報と合致することを何ら保証するものでもありません。

JP / JA